

ホスピタル・クラウンの活動について

西岡 薫未 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金田 安正

キーワード：ホスピタル・クラウン,医療,子ども,

1. はじめに

教育実習に行き、現在の子どもにはもっと元気が必要ではないかと思っていたところ、入院中の子どもの笑顔を引き出す活動をしているクラウンのことを知り、病院で活躍しているクラウンが、学校では活動できないかを検討することにした。

2. 研究方法

文献研究及びインターネットによる検索を行い、研究を進めた。さらに、クラウンとして活動している人へのインタビューやイベントに参加することで検討した。

3. 結果と考察

現在、日本で活躍している二つのホスピタル・クラウンの協会について調べた。

ホスピタル・クラウンは、病院を訪問し、入院中の子どもの笑顔を引きだし、子どもらしさを取り戻すことを目的として活動している。

活動は、主にボランティアで行っている。個人や企業からの募金で活動は成り立っているため、クラウンの収入はない。

活動は、病院に入院している0歳から18歳の子どもを対象としている。クラウンは医療行為をしないが、子どもを楽しませるだけのパフォーマンスをするのではない。治療を行う医療スタッフのサポートをすることも目的の一つである。そのため、活動前は情報交換のために医療スタッフとカンファレンスを行い、活動後は反省会

をするなど、常に医療スタッフと連携をとるようにしている。また、病院で活動するという点で、衛生管理も徹底している。

クラウン活動で得られる効果は、子どもが笑顔になる以外に、子どもと保護者、保護者と医療スタッフなど、人と人の距離を縮めることである。さらに療育環境の整備や改善を目指している。

4. まとめ

近年、クラウンの活動内容や効果は、医療現場でも認められており、日本全国から要望がある。しかし、クラウンの活動は、ボランティアで行っているため、収入がないことでクラウンになる人が少なく、人員不足になっている。そのため、要望のある病院すべてを訪問することは難しく、普及活動まで手を回せないのが現状である。

将来は、クラウンの活動が、入院中の子どもだけでなく、必要としているすべての人を対象に活動していけるようになることを目標としている。

今後、クラウン活動を日本で普及させるためには、国にクラウンの活動内容や効果を認めてもらい、支援してもらうことや、クラウンの各協会が企業や個人から今より資金を集め、良い条件でクラウンが活動できる環境を整えていく必要がある。